

国際保健医療活動Ⅱにおけるタイ研修について

神戸常盤大学 診療放射線学科 長谷川大輔

はじめに

2023年6月10日から6月18日まで国際保健医療活動Ⅱの科目でタイ研修にいきました。本研修は医療に対する国際感覚を高めることを目的としており、本学科としては今回が初めての取り組みでした。参加学生は診療放射線学科4年生の4名であり、4名中3名は初の海外でした。研修先のタイのマハサラカム病院は、私が5年前に一度訪問したことがあります、その時に仲良くなった外科医の先生に今回の訪問を相談したところ、快く引き受けてくれることになり、本研修の実現に至りました。

研修内容

マハサラカム病院は、病床数596床、施設面積56,800 m²、スタッフ数1928人と、マハサラカム地方で最も大きな病院です（写真1）。学生は、外来棟、入院棟、ICU、CCU、手術室、救急センター、病理科、そして放射線科の見学を行い、タイの医療体制について学びました。タイでもCovid-19の影響は大きく、マハサラカム病院の中でも多くの病棟で感染隔離室が作られていました。マハサラカム病院では、電子カルテやPACSなどの医療システムや、DRや高性能CT装置などの放射線診断装置が導入されており（写真2）、日本とあまり変わらない医療の現状に学生も驚いていました。また、カンファレンスで現地の学生と意見交換をする機会もあり、言語の壁もありましたが、積極的に意見交換ができたものと思います。

タイ文化

訪問した時期のタイの気候は雨季の初期であり、気温は30度～35度程度でしたが、湿度が日本に比べて低いため過ごしやすい気候でした。タイは日本と同じ仏教が信仰されていますが、日本とは見た目も大きさも異なるお寺や寺院が数多くあり、学生とともに参拝して礼拝の方法を学びました（写真3）。また、疲れた時に受けたタイ古式マッサージは格別でした。タイの食事は、ごはんには鶏肉がのったカオマンガイや、タイ風やきそばのパッタイをよく食べました（写真4）。トムヤムクンなどのスープ料理にはパクチーが入っているため、パクチーが苦手な私は苦戦しました。また、タイの空港でのビックマックセットは約1800円と物価の高さにも驚かされました。

タイは微笑みの国と言われますが、多くの方がわれわれに親切に接してくださいました。学生にとっては非常にいい経験になったものと思われまます。ありがとうございました。

病院研修



マハサラカム病院

マハサラカム病院

診療放射線技師が扱う装置について

- ・ 一般撮影装置 4台(島津)



文化

お寺：ワット



バンコク：ワット・アルン(暁の寺)

ワット・ポー(ねはん寺)



コーンケン：ノン・ワーン寺院



食文化

キング：ドリアン

香り ガソリン
触感 みずみずしさを失った
マンゴー



フルーツ界のクイーン：マンゴスチン



朝食の定番：カオマンガイ



ライチの仲間：ランブータン

タイ風うどん：クエチャ



タイ風焼きそば：パッタイ